



令和5年度 研究のあゆみ



研究主題

互いのよさを認め 学び合い 高め合う 子どもの育成

～聞き合い、つなぎ、深める授業づくりを通して～ 2年次（3年計画）

I 研究の概要

1 主題設定の理由

昨年度の研究成果

- ・学習形態の工夫による伝え合う意欲の向上
- ・ICT機器の効果的な活用
- ・個の考えを大切に扱うことによる自己存在感の高まり

昨年度の研究の課題

- ・全員が主体的に学び合いに参加できるような学習形態の吟味や話し方、聞き方の継続的な指導
- ・誤答を恐れて書いたり話したりできない子どもへの支援



目指す子どもの学びの姿

互いのよさを認め 学び合い 高め合う 子ども		
低 学 年	中 学 年	高 学 年
<ul style="list-style-type: none"> ○進んで相手の話を聞き、自分の考えを伝える子ども ○自分や友達のよさに気付くことができる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の話の要点を理解し、自分の考えを加えて話すことができる子ども ○互いのよさを出し合いながら、協力することができる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の意図を捉え、自分の考えと比べ、自分の考えを修正したり深めたりしながら話合いができる子ども ○他者を尊重し、自分と他者とのつながりについて考えながら協力することができる子ども

2 研究の仮説

子どもが互いに考えを聞き合い、つなぎ、深めるための授業づくりを工夫し、充実させれば、互いのよさを認め、学び合い、高め合う子どもを育成することができるであろう。

3 研究の重点内容

聞き合い、つなぎ、深める授業づくり	生徒指導の三機能を生かした学級づくり
<ul style="list-style-type: none"> ① 聞き方、話し方の指導の工夫・改善 ② 互いの考えを交流する場の設定 ③ 意欲や必要感が高まる課題の設定 ④ 視点を明確にした振り返りの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己存在感を与えて安心感を高める ② 共感的な人間関係を育てる ③ 自己決定の場を与える

II 研究の実際

1年生 国語科 「すきなもの、なあと」

ねらい

これまで学習したことを生かし、より詳しく伝えるために必要な事柄を増やしている。



- 教師の好きなものの発表を聞き、前時を振り返る。
- もっと知りたいことについて教師に質問する。

ともだちとはなしあって、すきなものをくわしくしよう。

好きなものについて話し合い、詳しく伝えるために必要な事柄を増やす。

• 本時を簡単に振り返り、次時の見通しをもつ。

好きなもの名前だけでは伝わらない部分に目を向けるために、あえて不十分なモデルを示す。

相手を意識した伝え方や表し方になるように、読み手側の立場に立って考えるよう声掛けをする。

視覚的に理解できるように、子どものシートを拡大したものを掲示する。

子どもの質問に答えながら、教師がシートにメモする姿を見せ、話し合う活動のモデルを示す。

好きなものについて自由に質問し合い、答え合うことができるように、十分な時間を確保する。

「わけ」を書くことが難しい子どもに対しては、ペアで話し合った子どもに助けをもらいながら考えるよう、声を掛ける。

本時の学習を振り返るために視点を示し、◎○△で自己評価できるようにする。

2年生 国語科 読んで考えたことをつたえよう「どうぶつ園のじゅうい」

ねらい

にほんざるに薬を飲ませる仕事について、その工夫を読み取り、獣医の思いを考えようとする。



- 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

くすりをのませるために、じゅういさんがしたくふうを読みとろう。

• 獣医さんの工夫したことが分かる部分にサイドラインを引き、まとめる。

• 薬の写真を順番に並べ替える。
• 工夫のわけと、にほんざるが薬を飲んだときの獣医さんの気持ちを考える。

• 振り返りを書く。

前時の学習を振り返り、学習計画を確認し、本時の学習への意欲付けを図る。

本文を掲示し、獣医さんのしたことを読み取るために、「～しました。」という語尾に着目させる。

工夫を視覚的に捉えられるように写真を用意する。

獣医さんがどのような気持ちで仕事に臨んでいるのかについて考えをもち、広げたりするために、自分の考えを書いた付箋紙を写真に貼ってグループの友達と考えを交流する場を設ける。

獣医さんへの思いを自分の言葉で表すことができるよう、獣医さんへの手紙を書くことで本時を振り返る。

3年生 算数科 「あまりのあるわり算」

ねらい

除法の余りの意味について考え、その処理について図や式を活用して説明することができる。



- 本時の学習の内容に見通しをもち、子どもの言葉から学習課題を設定する。

あまりはどうしたらよいか。

• あまりのあるわり算を解き、答えの処理について図や式を用いて考える。
• 考えを書いた子ども同士が、自由に考えを交流する。

• 全体で検討する。
• 全体でまとめる。

• 評価問題を解く

• 本時の学習を振り返る。

問題場面を捉えられるよう、実物を提示する。

自分の選んだ答えを意思表示したり、グループ活動を円滑に進めたりできるように、ネームプレートを活用する。

考えを伝えたり質問したりしやすい場とするために、フリートーク形式を取り入れる。

話し合いの場中に誤答に気付いた場合は、根拠を明らかにできるように問い返したり、余りの処理を正しく理解できるよう、実物を提示したりする。

課題解決の達成感が高まるように、子どもの言葉を引き出しながらまとめる。

学び合いのよさが実感できるように、振り返りの視点を示し「友達の発表や考えから大切なこと」とする。

4年生 特別の教科道徳 「友達を大切に」

ねらい

赤おにや青おにの姿を通して、友達を大切にすることについて考え、友達とよりよい関係を築き、互いに理解し、信頼し合おうとする心情を育てる。



- それぞれがもつ「友達」のイメージについて共有する。

友達を大切にすることは、どういうことだろうか。

○「泣いた赤おに」を読んで、話し合う。
• 赤おにと青おには、友達を大切にしているか考える。
• 赤おには涙を流しながら、どんなことを考えているか考える。

• 本時の学習を振り返り、友達を大切にすることは、どんなことか、またこれからどうしていきたくいか考える。

事前の価値理解の実態が分かるように、教材を読む前のアンケート結果を提示する。

黒板の心情メーターに名前カードを貼ることで、全員が考えを視覚的に分かるようにする。
道徳的価値について話し合うことができるよう、理由を話すよう促す。

行動の背景にある心情に視点を向け、赤おにの変化を考えられるようにする。

自分たちの考えの深まりや広がりを感じられるように、授業の初めと同じ発問をし、黒板に書き加える。

5年生 家庭科 生活を支えるお金と物

ねらい

身近な消費生活に関わる課題についての話し合いを通して、商品を選ぶときの視点からよりよい消費行動について考えている。



- 前時までの学習を振り返る。
- 本時のめあてを確認する。

商品を選ぶときに大切なことについて考えよう。

• グループでノートを見ながら特徴について考えを出し合い、付箋に記入する。
• グループの考えを発表し合い、考え方を広げたり、深めたりする。
• 出された考えを基にして、自分が選ぶ一冊を決め、選んだ理由を書く。
• 自分の考えを発表し、まとめる。

• 話し合ったことを基にして、振り返りを書く。

前時までの学習内容を確認し、本時の学習を確認する。

話し合いが整理できるように付箋紙を用意し、個々の考えを価値付けながら机間指導する。

ノートの種類毎に黒板に付箋紙を貼っていき、視点毎にまとめていく。

自分の考えを確かめるように、理由を書くよう声掛けをする。

学んだことをこれからのよりよい消費生活に生かすことができるように、ねらいに沿った振り返りを取り上げ、共有する。

5年生 理科 「電流がうみ出す力」

ねらい

電磁石を強くする方法を調べる実験について、自分の予想を基に、条件の制御の仕方や実験の方法を考え、表現する。



- 本時の見通しをもち、学習課題を確認する。

電磁石を強くするには、どうすればよいのだろうか。

• 予想を立てる。

• 予想を基に、電磁石を強くするための実験方法を考え、検討する。
• 話し合っ決めて実験の図をノートに簡単に書き、次時に実験を行うことを確認する。

• 本時の学びを振り返る。

電磁石を強くする方法に関心をもてるように、電池やコイルが見えないようにした電磁石を使って多くの鉄の釘をつり上げる演示を行う。

理由や根拠のある予想ができるように、既習の内容である電流や磁石の学習について振り返るよう促す。

互いに図を示しながら考えを深められるように、回路につなぐ器具を印刷した半具物体を操作しながら話し合う場を設定する。

ねらいに沿って振り返ることができるように、「友達との話し合いで学んだこと」という視点を示す。

6年生 算数科 「円の面積」

ねらい

円の面積の求め方を、円を等積変形した平行四辺形や三角形の面積の求め方をともに考えている。



- 前時の確認をし、本時の学習の見通しをもつ。

円の面積を計算で求めるにはどうしようか。

• 円の面積を求める。
• グループで、自分が取り組んだ形の面積の求め方について説明し合い、求め方の共通点について話し合う。

• 全体で共通点を出し合い、まとめにつなげる。

• 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。

円の面積を素早く計算で求めたいという気持ちを高めるために、円の面積を1cm²ずつ数えたことや正八角形に分割して求めたことを提示する。

一人一人が求積可能な等積変形を行うことができるように、円を8等分した教具を使用する。

円の面積の求め方の共通点を見付けるために、グループのメンバーに自分の求め方を説明する場を設ける。

友達のをよさを認め、自分の学習を振り返ることができるように、振り返りの視点を複数提示し、自分で選ぶようにする。

さくら組 生活単元学習 自立活動 農園活動

さくら組のねらい

同じような作業工程を繰り返すことで、仕事の内容を覚えて粘り強く作業に取り組むことができる。

つばき組のねらい

話をよく聞き、苦手なことにも挑戦しながら、粘り強く作業に取り組むことができる。

作業の仕方を見たり、先生に聞いたりして、植え付け作業をする。



植え付け作業



かぼちゃ・さつまいもの調理

話をよく聞き、自分でできることを選んで取り組む。

手順を表にまとめて確認し、衛生に気を付け取り組む。

もっと挑戦したいことを見つけて取り組む。
• やきいも
• かぼちゃの調理

自分たちで作ったものを見せたい人について意見を出し合い、それぞれ挑戦する。

子どもの思考の流れに沿った学習展開の工夫

学習過程	授業改善の視点	検証のポイント
つかむ めあてや課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲や必要感が高まる課題の設定 ・課題提示の仕方の工夫 ・学習のイメージの共有化 ・本時のめあての明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもっている。 ・課題解決に向けて意欲をもっている。
考えをもつ 自分の考えを示す	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表したり、書いたりしている。 ・既習事項やこれまでの生活経験などを活用し、多様な考えを引き出している。
深める 課題追究まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いの考えを交流する場の設定 ・思考を揺さぶる発問の工夫 ◎聞き方・話し方の指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を付けて、話したり書いたりしている。 ・話し合いを通じて考えを深めている。 ・ねらいに沿って、分かりやすくまとめている。
振り返る 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○視点を明確にした振り返りの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する成就感や次への期待感をもっている。 ・自己の変容について書いている。

◎…今年度の重点事項

生徒指導の三機能を生かした学級づくり



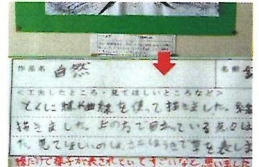
自己存在感

全員が参加できるような学び合いの場を設定する。

全員の考えを視覚化して学び合い（2年国語科）

共感的な人間関係

相互評価を取り入れ、互いのよさを認め合う場を設定する。



友達の作品へコメント（6年図画工作科）

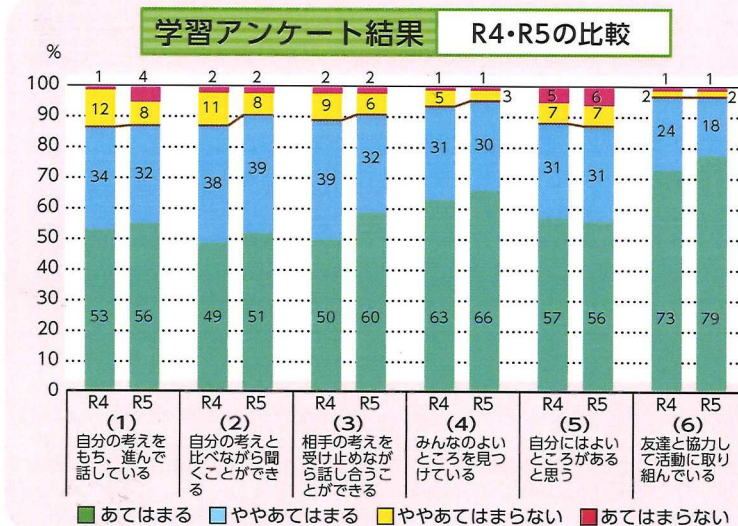


家庭学習ノートを選ぶ（5年家庭科）

自己決定

理由を明確にしながら自分で決定する場を設定する。

研究の成果と課題



学習アンケートの結果を昨年度と比較すると、6項目中4項目で肯定的回答の割合が増加し、概ねよい傾向が見られた。

項目(2)「自分の考えと比べながら聞くことができる。」の肯定的回答は、87%から90%に、項目(3)「授業では相手の考えを受け止めながら話し合うことができる」については89%から92%に、いずれも3%上昇した。特に項目(3)の「あてはまる」は50%から60%と、10%もの上昇が見られた。このことから、子どもたちは友達の考えを聞き、受け止め、比較・検討する意識が高まっていることがうかがえる。ペアやグループの活動を意図的・継続的に設定したり、誤答や考えの途中を大切に扱ったりといった取組が実を結んできたと考えられる。

項目(6)「友達と協力して活動に取り組んでいる」の肯定的回答は、昨年同様97%と、すべての項目で一番高い数値であった。上記のような学び合い活動の充実に加え、全教育活動において、子ども同士の関わり合いや認め合いを大切にしてきたことの効果が出ているので、今後も継続していきたい。

成果

- 自分事として捉えられるような身近な問題を学習課題に設定し、具体物を提示したことで、解決への必要感が高まり、学習意欲の向上につながった。
- ネームプレートを活用することで、自分の立場や思考を表現したり、友達の考えを確認したりしながら考えを深めることができた。
- ペアや少人数での学び合いの場を意図的、継続的に設定したことで、伝えたい、聞きたいという意欲の向上が見られ、自分の考えと比較・検討する力が向上した。また、このような学び合いの活動が書く力や発表意欲の向上にもつながった。
- お互いの顔を見ながら発表したり聞いたりする活動を取り入れることで、相手の考えを受け入れたり、自他のよさに気付いたりする姿が見られ、自己存在感が高まってきた。
- 誤答や途中までの考えも受け入れ、大切に扱うことで、補足したり発言をつないだりしながらみんなで解決しようという姿が見られるようになってきた。
- 振り返りの視点を明確にした。特に友達のよさや自分との共通点・相違点に焦点を当てるよう促したところ、自他のよさに気づき、主体的に学習に取り組もうとする姿勢が育ってきた。

◎…今年度の重点事項に関わる成果

改善事項

- 全体での学び合いの場において、教師と子どもの1対1となってしまう場面があった。意図的指名や発言をつなぐコーディネートなどがより重要となってくる。
- より主体的に学び合っているように、話し方・聞き方の継続的な指導をすると共に、つなぎ言葉や型どおりにない反応など、発達段階に応じた指導が必要である。
- 基礎学力や既習内容の定着度などに差がある子どもたちの学び合いを支えるために、効果的な復習や教室環境、資料の精選などの手立てを工夫する必要がある。